

発行所
日本赤十字
新労働組合連合会
略称「日赤新労」
東京都港区西新橋3-14-5
Tel・東京434 7080
発行責任者
山景 勇

日赤新労ニュース

綱領
1. 吾々は、社会正義に立脚した良
識ある労働運動を通じて吾々の権
利を守り、生活の安定と向上をは
かる。
2. 吾々は、常に暴力と独裁を排し
自由にして明らかなる民主的労働組
合としての健全なる発展を期す。
3. 吾々は、赤十字の民主化と近代
化を促進することによって、その
人道的任務の達成に寄与する。

流動する労働情勢のもと

第八回定期大会開催

— 昭和四十四年四月十一日、十二日 —
— 於 渥美半島、伊良湖、国民休暇村 —



44年度新陣容 (左より川島 川出 吉村 山景 鈴木 服部 宮野 石松 吉田 山本の諸氏)

第八回定期大会は、三河湾固定公園、伊良湖国民休暇村、しおさい荘において、役員、代議員の外オプザーバー等約百五十名参加して盛大に挙行された。準備委員会に於て選出された大会役員次のとおり。

- 役員選出委員
二、四、六プロックより各一名
委員長 古橋 勝也(浜松)
委員 渡辺 康喜(唐津)
以上二名
- 役員詮衡委員
各プロックより一名宛
委員長 山田 正
委員 宮野 政夫
同 町井 守
同 工藤 進
同 西川 陽三
同 石松 順一
- 選挙管理委員
各プロックより一名宛
委員長 池上 和男
委員 大畑源右衛門
同 木暮 富弥
同 小瀬 勇
同 清水 登貴三
以上五名

- 大会宣言文起草委員
一、三、五プロックより各一名
委員長 村岸 義則
委員 西条 豊年
同 行本 昌平
- 〇日程
(一) 開会 川出執行委員長
(二) 資格審査、成立確認
(三) 古橋選出委員長
代議員九十名中六十七名出席
外委任状 五
(四) 議長選出、書記任命
議長 宮原 義彦(名一日赤)
副議長 小橋しき枝(岡山日赤)
書記 吉田 栄司(盛岡日赤)
同 夏井 恒世(新労本部)
(五) 祝辞、祝電披露
貴大会の御盛會を祝し、今後の発展を祈ります。
一般同盟医療労働
愛知一般同盟
御盛會を祝し、今後の発展を祈ります。
福島県支部新労
秋田県支部新労
滋賀県支部新労
労資日赤職員同志

大田原日赤職組
水戸日赤職組
名一日赤職組
名二日赤職組
長浜日赤職組
八戸日赤職組
浜松日赤職組
第八回定期大会を祝し、新労発展のため活発な討議が行われ、盛會のうちに終ることを祈る。
鳥取日赤職組
この大会で新労路線を明確にし、勇気をもって、要求獲得に邁進されんことを心からいのる。
今津日赤新労

執行委員長挨拶
川島執行委員長
日赤新労も生れてはや八年、健康で順調な歩みを経てまいりました。
この八年間、綱領の精神に則つて、正常な労働協約の確立、給与体系の整備統一、期末手当制度の正常なる運用等をおこなって参りましたが、今回は特に多年の宿願である、年金制度創設の具体案作成を達成し、団交に臨む準備OKというところで、各位の御協力を深く感謝致します。
更にこの度期報としてお伝えするのは、かねてより新労路線に共鳴して、再建に努力せられつゝあつた高知日赤同志の新労加盟を見ただことであり、只今の大会で御紹介いたします。(要旨)
高知日赤新労組合長
伊藤 進氏挨拶
吾々は過激分子の破壊行動に対し革命的筆火を燃らすものとして、これを排撃するものであり、再建同志会を結成して、新労の人々の御援助のもと参りました。この度新労加盟を致しましたので、今後は一層の御支援御協力をお願いする次第であります。

(報 告)
一般経過報告 山景書記長
配布のプリントにより、昨年第七回定期大会以来の行事について詳細説明報告を行った。
各支部報告
(A) 総務部 山景書記長(大坪執行委員の代理)
本年度は、部内諸規定の整備

を実施するよう努力したい。
(B) 調査部 川越調査部長
昭和四十三年度は「日赤給与の実態調査」、「社宅等状況調査」、「退職年金制度に関する調査」の三つを実施し、就中年金制度の調査は、日赤に適合する年金制度を確立するための基礎調査であり、各単組より提出の資料に基づき、別紙のとおり具体案を、安田信託銀行の協力により作成した。試算は次の三種類につき行った。
調整年金
社内年金
団休年金
(C) 組織部 服部組織部長
本期中、次のようなオルグ、内部強化、単組応援、話し合い等を行った。
大津日赤、今津日赤ポナス斗争応援、長崎原爆病院、浜松日赤及び東京、三重支部等の単組役員との話し合い。
福岡、芳賀、筑前、高知、高知日赤オルグ。
右オルグ中、高知日赤は新労加盟にまで発展したことを報告する。

(D) 教宣部 吉村教宣部長
昭和四十三年九月中旬、滋賀県青年会館で、第六回学習会を開催し、相当の成果があつたと思ふ。本年度は多数組合員の要望に応え、運動方針に従つて計画実施したいと考えてある。
(E) 婦人部 竹瀬婦人部長
昭和四十三年度は、四月二十二月二十二日及び四月二十四日二十一日の二回、婦人部代表者会議を開催した。組織が延びたこと、代表者会議開催時間の延長したこと等の成果をあげたのはよろこばしい。本年度は、決定された運動方針に基づき、組織の拡大強化、託児所の設置充実、婦人労働者の権利確保、各種有給休暇の完全実施、復讐夜勤八日割、産後夜勤免除(六カ月後復讐等)、看護員不足対策として看護婦確保手当の新設要求などに立ちあがらなくてはならない。

(質疑応答)
(藤田「東京都支部」)
新労の組織について、単組数、人員等について発表された。
(本部)
単組数五三、うち支部二七、病院血液センター等二六であり、人員は四六、〇〇である。

各支部報告
(A) 総務部 山景書記長(大坪執行委員の代理)
本年度は、部内諸規定の整備

(伊藤「三重支部」)
各組人員の内訳を知りたい。
(本部)
月々変動も多く、正確な数字を明確にすることは困難であるが、単組数に比して支部関係と病院関係では相当の開きがあることは事実である。執行部としては、力の強弱等にとらわれず、相互扶助の精神に基づいて、すべての活動を推進して行きたい。
特殊性について要望があれば申し出たい。
(大畑「八戸日赤」)
日赤内労働団体の勢力を野を知らせたい。
(本部)
全日赤、日赤労組共ハツキリつかめたいが、新労は徐々に全日赤を追い越して、あるように観測される。
(藤田)
ストについての考えを聞きたい。
(本部)
組合である以上、必要やむを得ない場合は勿論ストはやる。しかし破壊活動は避けなくてはならないと考えている。
(藤田)
他の労働団体と共闘を考えているか。
(本部)
利益の一致点については共闘という点も考えられないことはないが、それ以前の問題として、思想及び路線を調査しなくてはならぬ。
(渡部「中央病院」)
場合によっては進んで共闘を行いたいの結果をはかるべきだ。
(横田「水戸日赤」)
共闘には相手をよく知ることが先ず必要である。そうでないと相手にうまく乗じられるだけである。
(本部)
共闘の問題については慎重の上にも慎重にこれに当り、相手のペースに乗せられぬよう注意したい。
(伊藤「高知日赤」)
共闘の問題もさることながら、吾々は先づ経済上の問題で、いかにしたならば賃上げその他労働条件を改善できるかを考えなくてはならない、それには医療費の問題にもっと真剣に取り組む必要はないか。
(本部)
この問題は根本的な重要なことで、過去日赤新労として関係当局に陳情を行ったこともあるが、一面不成功に終わった場合、経営者に口実を与えらるることもなるので、この点考えなくてはならないが、経営者と別個に何等かの手を打つことは必要と思う。
(大畑)
組織の問題でたずねるが、北海道を閉鎖する考えはないか。
(本部)
考えない訳ではないが、遠距離であり、経費もかかる点などからまだ行っていない。しかし機会があれば有望であればオランダに出かける考えは持っている。
(藤田)
労働者の祭典であるメーデーに、新労として参加すべきであると考えられているか。
(池上「岡山日赤」)
メーデーには総評系、同盟系等があり、新労として統一参加は問題である。
(横田「水戸日赤」)
各単組の地域社会の事情に合わせて参加すべきであり、新労としては上部団体を持っていないので、現状では時期尚早と思う。
(本部)
上部団体に加盟していない新労は政治的色彩を持っていない。労働者の祭典としての参加には意義があるが、本部として決定づけることはできない。したがって各単組の事情に応じての参加とされる。
以上で、一般報告並びに各都報告に対する質疑を終り、会計報告に入る。
(本部) 鈴木会計課執行者
配布資料により、一部ミスプリンツを訂正し、昭和四十三年度決算について報告を行った。
(本部) 会計課報告者
昭和四十三年度決算その他の他について監査を行なったところ、正確である旨の報告があり、更に本部所要経費の内訳なる運用のため、必要正規則人に協力された旨を報告した。
(本部) 鈴木会計課執行者
告知した。なお、池上代議員より組織人員数、実際の会費収入金等



外野よりの声援を約シスタンドを降りる旧役員諸氏。(御苦勞さんでした)

(審議)
昭和四十四年度運動方針
本部としての実情を報告し、了承を求めた。
(横田「水戸日赤」)
執行委員会、交渉委員会等の回数などの報告。
(本部)
執行委員会は年十、二回、回交かつたが、本年はこれについての審議。
(審議)
昭和四十四年度運動方針
本部より提案説明があり、討議に入る。
(A) 正当なる資金について
(長谷川「愛知血銀」)
ペアに於て昨年は一歩も前進しなかったが、本年はこれについての組合との共闘など考えて見てはどうか。
(渡部「中央病院」)
ペア斗争は例年同じです、でに眼界に来てはいると思う。吾々は何かしてこの行き詰りを打開しなくてはならない。新方針が必要だ。
(村岸「名二日赤」)
新方針として、その路線に沿って信念をもつて進むべきである。徒らに共闘などに巻き込まれてはならないと思う。
(本部)
現時点では共闘は考えてない。必要があれば要請するつもりだ。またペア斗争に対しては行き詰りなど感じていない。本部は皆さんの決定に基づいてその通りやっているのである。先ず第一に機関決定事項の完全実施を本部から皆さんに要望したい。
(B) 組織の拡大強化について
(渡部「中央病院」)
現在本部書記局の体制はどうか。
(本部)
夏井書記及び臨時一名で多忙を極めてはいる。適任者があれば紹介してほしい。
(渡部)
新労ニユースには他組合の状況を載せるようしたい。
(C) 年金制度創設について
執行部としては、何としても本年度中には年金制度の創設に関する具体案を作成しなくてはならぬという強い信念をもって、真剣に取り組みの結果、組合員各位の絶大な協力により、日赤に適用されると思われる「調整年金」「社内年金」並びに、新労独自で運営できる「団体年金」についての具体案を作成したものである。これを提案説明したところ、全員異議なく承認された。
(D) 明るい職場について
(徳田「岡山日赤」)
本社提案の夜勤制に対する勤務体系は改善であり反対である。労働強化を伴うことは至である。なお、運動方針の中に、複数夜勤制の項を追加したい。
(本部)
継続審議事項のため記載しれをした。次のとおり運動方針に挿入することにしよう。
「看護婦の複数夜勤八日制を確立することにより、単組並びに本部が一体となり、これが実現に努力すべきである。」

以上をもつて運動方針案は全員賛成可決された。
(B) 規約改正について
組合規約第四十九条の会費一八〇円を二〇〇円に改めることについて、本部から提案理由の説明があり、無記名投票の結果次のとおり可決された。
投票総数 六七票
賛成 六一票
反対 六票
昭和四十四年度予算
会費の点で賛成を得ているので、二、三の問題で質問があつたが、原案どおり可決された。
(C) 夏期手当について
昨年末から、本社通達所謂「お墨付」なるものが出なくなったことにつき、一応は給与要綱三十五の正しい運用が行われている筈であるが、何か通達に変わるような文書が内密で流れているという噂もあつた。何となくスツキリしない。今年は何となくお墨付は出ない。今後はどうかが、この辺のところを確かめる必要があるという意見が多いため、執行部から本社に確認を求め、執行部から正式の通達を出されたいという前提のもとに、討議を進めることにした。
(村岸「名二日赤」)
基準線を自主性に出ない限り、各単組は自主性に基づいて要求すべきだが、各単組バラバラでは困るので、一本の線を引きたい方がよいと思う。
(小瀬「名二日赤」)
統一要求を出すことに賛成であるが、同時に、年間要求を示すがどうかについても検討する必要があると思う。
(村岸)
年間要求を出すことについては、損得両面のあることが考えられる。一本にして交渉できることとあり、損な面は、六月以後昇給、昇格等あつた場合、不利となることとがあると思われるのである。
(本部)
ここで、統一要求を出すか、年間要求とするかどうかにあつては、時期尚早であること、統一要求は施設長宛、執行委員長より出すこと、等がきまつたので、議長から各ブロックへ会議を持ってないところは単組意見における夏期手

当要求額の提示を求めた。
その結果は、十八割プラス一律五千円というのが圧倒的だったので、左記のとおり統一要求を、施設長宛、本部執行委員長より発送することに決定した。
記
十八割プラス一律五千円
以上で、議案の審議を終り、役員並びに会計課の選挙を、監事委員の推せん候補につき、無記名投票〇×式で行つた。結果次のとおりである。
執行委員長
川島 亮介(大田原日赤)
副執行委員長
川島 富治(名二日赤)
書記長
吉村 政一(大津日赤)
副書記長
山景 勇(鳥取日赤)
鈴木 隆雄(愛知東支部)
宮野 政夫(新潟東支部)
同 石松 順一(今津日赤)
同 服部 昭一(名二日赤)
同 小川 幸雄(中央病院)
同 吉田 京子(盛岡日赤)
同 山本 肇(唐津日赤)
同 義郎(石巻日赤)
以上で、会計課の改選を終り、その後、大会宣言文の朗読、新役員挨拶があつて、方丈三唱盛りあがる気候に溢れた第八回定期大会の幕を閉じた。
大会宣言
われわれは第八回大会の審議を通じて、新労の基本路線を再確認するとともに本年の主要斗争目標を決定した。
即ち、新労結成以来堅持して来た良識ある労働運動を通じて労働の発展を期し、先ず第一に患者さんの幸せを考え、第二に働く者の幸せを図り、第三に企業発展に寄与して来たのである。
然るに経営陣はわれわれの意図する方針に消極的で理解がないことは遺憾である。
本年こそは新労の創意と要求を結集し、活動方針を確立した。
流動する労働情勢の中にあつて新時代のにない手こそ新労であるという確信のもと新年度の運動の成果と栄光を目指して力強く前進することをここに宣言する。
昭和四十四年四月十二日
日赤新労第八回定期大会
千代多恵子



四 国 の 雄 高 知 日 赤 新 労 に 加 盟



挨拶する伊藤高知支部執行委員長

長い間苦難の道を通ってきた高知日赤の同志が遂に組合結成、新労加盟に至るまでの経過は次のとおりである。

四四、二、四 病院再建協議
会発足（下段趣意書）

四四、二、二〇 協議会総会

四四、二、二〇 新労組合結成

四四、四、三 新労決起大会

組合役員

執行委員長 伊藤 進

副執行委員長 宮地 正男

書記長 前田 重長

執行委員 小野 郁夫

同 秋田 昌子

会 計 岡田 元晴

同 和田 勉一

かくして態勢が整ったので、四月十一日（十二日愛知県伊良湖に於て開催された。日赤新労第八回定期大会に伊藤、宮地の正副委員長が出席して、正式新労加盟となったものであり、正式組織名は「日赤新労高知支部」と呼称することに決定した。なお同支部から下段のような、土地紹介を兼ねた親しみあゆ一文が寄せられた。

趣 意 書

私達の高知赤十字病院は名実共に県下最大の総合病院として輝かしい歴史を歩んで参りました。我々は多くの先輩たちの残したこの歴史を捧げ更によりよき先進を望むことは当然であります。

すでに老朽化した病棟の改築は則ち我日赤の飛躍の第一歩と申せましよう。病院再建の旗印のもと職員一丸となり、あらゆる困難を排し遂に改築の足がかりを得ることができたのはまことに喜ぶべきことであります。而し乍ら我々をとりまく周囲の状況はきびしく、則ち健康保険法の改正、又は薬価基準の引下げ等保健経済の悪化は直接医療機関に深刻な影響をあたえて居ります。

国・県或は市立病院の如く、その財源を租税に委ねることの出来得ない全く孤立、独立採算制の我日赤は職員一人一人の力結集以外に病院の再建発展は考えられません。我々は此の点を深く認識すべきです。現実の病院の姿を直視せず、いたずらに急進的革新にのみ目を奪はれ、ひたすら猛進することにより自ら墓穴を掘り、その穴の中に革命という言葉を抱いて没することは明日の光輝ある日赤を再建することは勿論、自らの生活の根底をも破壊することになります。

我々は病院の現状を正しく理解し、外に向つては医療行政の改善を叫び、内に向つては良識ある判断と理解に基づき、病院再建の目標に向い高知赤十字病院の歴史に更に価値ある一頁を我々の此の手で記そうではありませんか。

我々はここに良識と正しい勇気ある同愛の土集い病院再建協議会を結成しました。これを母体とし一意一丸となり病院再築に進もうではありませんか。

大方の心ある同志の賛同を此処に切に望み、あえて趣意を述べる次第であります。

昭和四十年二月

発 起 人 一 同

東に室戸、西に足摺、天下の名勝を両端にして延々実に三〇〇軒、大平洋の黒潮に洗はれる南国土佐は、龍馬は行くの維新ブームとともに春ともなれば全国より観光客の足しげき所でありました。

「眼に青葉、山ほととぎす初鯉」

その鯉の名産地としても知られ、又情緒深きヨサコイ節の一節に坊さんカンザシ買うをみた と巷間伝えられるハリマヤ橋もまた一つの名所となっています。

土佐一國二十四万石の城下町高知市は人口約二二万その中心に位する山内公の居城高知城の北方、新本町に私達の高知赤十字病院があります。

維新の動乱の國土佐、浪高き桂浜に尚静かなる月の影、動と静を一幅に画く土佐の風光。是非一度お立寄り下さいませよう新労組合員一同おまち致します。

高知新労伊藤執行委員長

地方だより

岡山赤十字病院従業員組合においては次のとおり、定期大会が開催された。

昭和四十四年二月二十五日、午後五時より、勤務者を除く組合員大多数の出席のもと、新本部並びに新労加盟各単組の祝電を背景に、四十三年度活動報告、各部報告、会計監査報告、その他の報告を行い、承認の後、岡山日赤従組の四十四年度運動方針、同予算案等を可決した。運動方針を要約すれば、賃金などあらゆる労働条件の改善維持を図り、組合員の経済的、文化的地位の向上を推進するためには、われわれは直面する情勢を適確に把握すると共に、さらに将来を展望し、良識と冷静な態度で真剣な討議をし、決定された事柄に対しては全組合員S強固な団結をもとに、積極的に取り組む

決意と努力が必要であり、また、日赤新労の組合運動を着実に前進させるため、単組としても思想的背景を持たず、経済斗争第一主義である日赤新労上部団体の運動方針に積極的に協力し、日赤新労の綱領を支柱とした良識ある労働運動をする必要があることを確認したものである。

改選された役員次のとおり。

- 組合長 池上 和男
- 副組合長 青山 圭一
- 書記長 行本 昌平
- 副書記長 小橋 ぎし枝
- 会計委員 岡崎 美恵子
- 執行委員 谷山 実
- 同 徳田 久子
- 同 守屋 美里
- 同 藤原 英朗
- 同 井口 祥三郎

大山原赤十字病院職員組合

- 執行委員長 川島 亮介
- 副委員長 小森 清志



盛りあがる岡山日赤単組定期大会

●単組の動き(役員改選)

青森県支部職員組合

- 組合長 渡辺 昭一郎
- 副組合長 須 郷 直
- 兼書記長 須 郷 直
- 会計監査 工藤 晃
- 会 計 石川 かつ子
- 常任委員 渡辺 昭一郎
- 同 須 郷 直
- 同 和久 英里子
- 同 高松 敬子

前橋赤十字病院職員組合

- 執行委員長 早川 清也
- 副執行委員長 三木 和夫
- 書記長 佐藤 春江
- 同 木暮 富弥
- 会 計 大屋 賢治
- 執行委員 鹿沼 勝玄
- 同 北尾 寿一
- 同 千野 洋子
- 同 村上 たま代
- 同 吉井 勇
- 同 有川 善雄
- 同 早川 清也
- 同 三木 和夫

岡山赤十字病院従業員組合

- 組合長 池上 和男
- 副組合長 青山 圭一
- 同 行本 昌平
- 書記長 小橋 ぎし枝

執行委員 藤原 英朗

同 井口 祥三郎

同 守屋 美里

同 徳田 久子

同 谷山 実

同 岡崎 美恵子

同 武田 清

同 森近 英生

同 池上 和男

同 青山 圭一

同 行本 昌平

同 池田 和枝

同 渡辺 克子

同 西村 佑夫

同 関塚 勝則

同 古橋 勝也

同 坂田 和恵

同 松尾 なつ子

同 小楠 久代

同 横山 幸夫

同 藤井 克治

同 川越 功

同 伊藤 理夫

同 高木 殷之

同 尾崎 時子

同 後藤 敏枝

同 青木 咲子

同 阿形 裕子

同 伊藤 勝子

同 石塚 ひろ

同 太田 容子

同 川島 ひろ子

同 河合 安子

同 木村 邦彦

同 木下 忠晴

同 久保田 千恵子

同 柴田 文代

同 下村 勝美

同 鈴木 やす子

同 鈴木 節子

同 高田 清

同 坪井 祥子

同 豊田 のぶ

同 成沢 ますゑ

同 中山 千恵子

同 根岸 桃代

同 野沢 千秋

同 平井 包十

同 平野 よしの

同 森島 菊枝

